

# 生ごみ資源化実施市町村に対するアンケート調査結果

## 第3回地域循環圏に関する九州会議

平成22年3月16日

(財) 日本環境衛生センター

# I. 生ごみ資源化状況調査アンケート調査の概要

## 1. 目的

九州管内において生ごみの資源化に取り組んでいる市町村の実態を把握するため、アンケート調査を実施した。

## 2. 実施期間

平成22年2月8日～平成22年2月19日

## 3. 実施方法

電子メールにより調査票配布・回収

## 4. 対象及び回収

九州管内の堆肥化実施市町村に対し、アンケート調査票を送付(完全実施市町村:17、一部実施市町村:18)

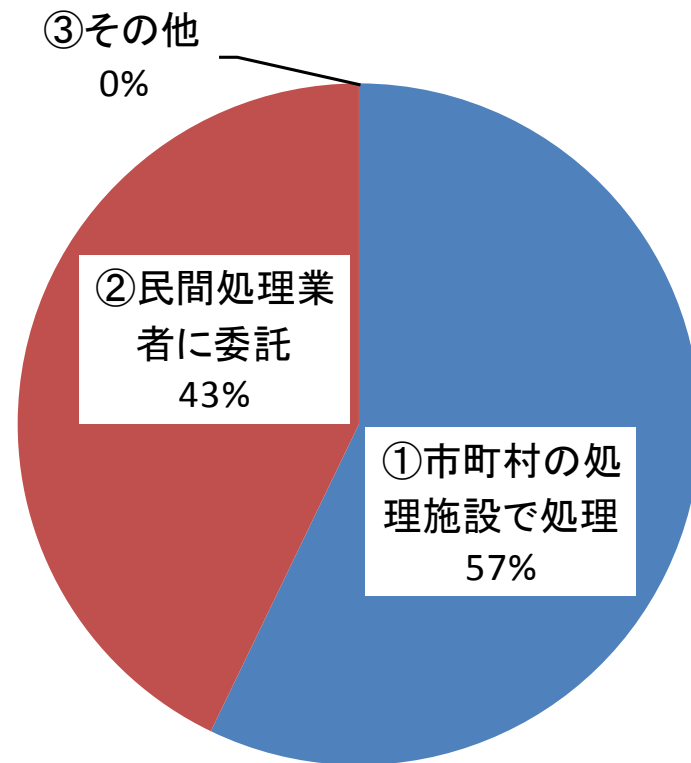
回収28市町村(完全実施市町村:16、一部実施市町村12)

回収率80%

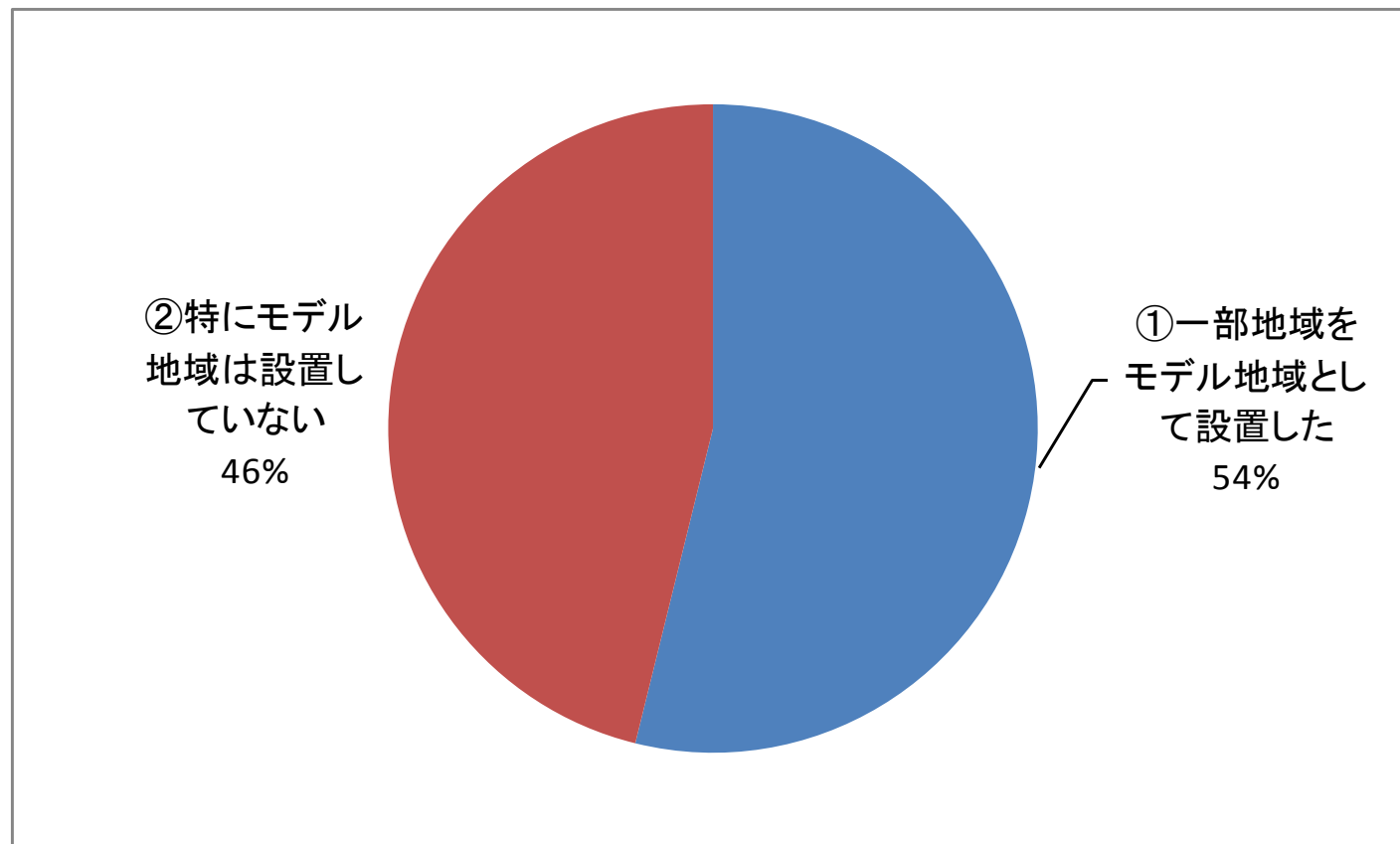
## Ⅱ. 調査結果

### ○ 問1 生ごみ資源化についての概要

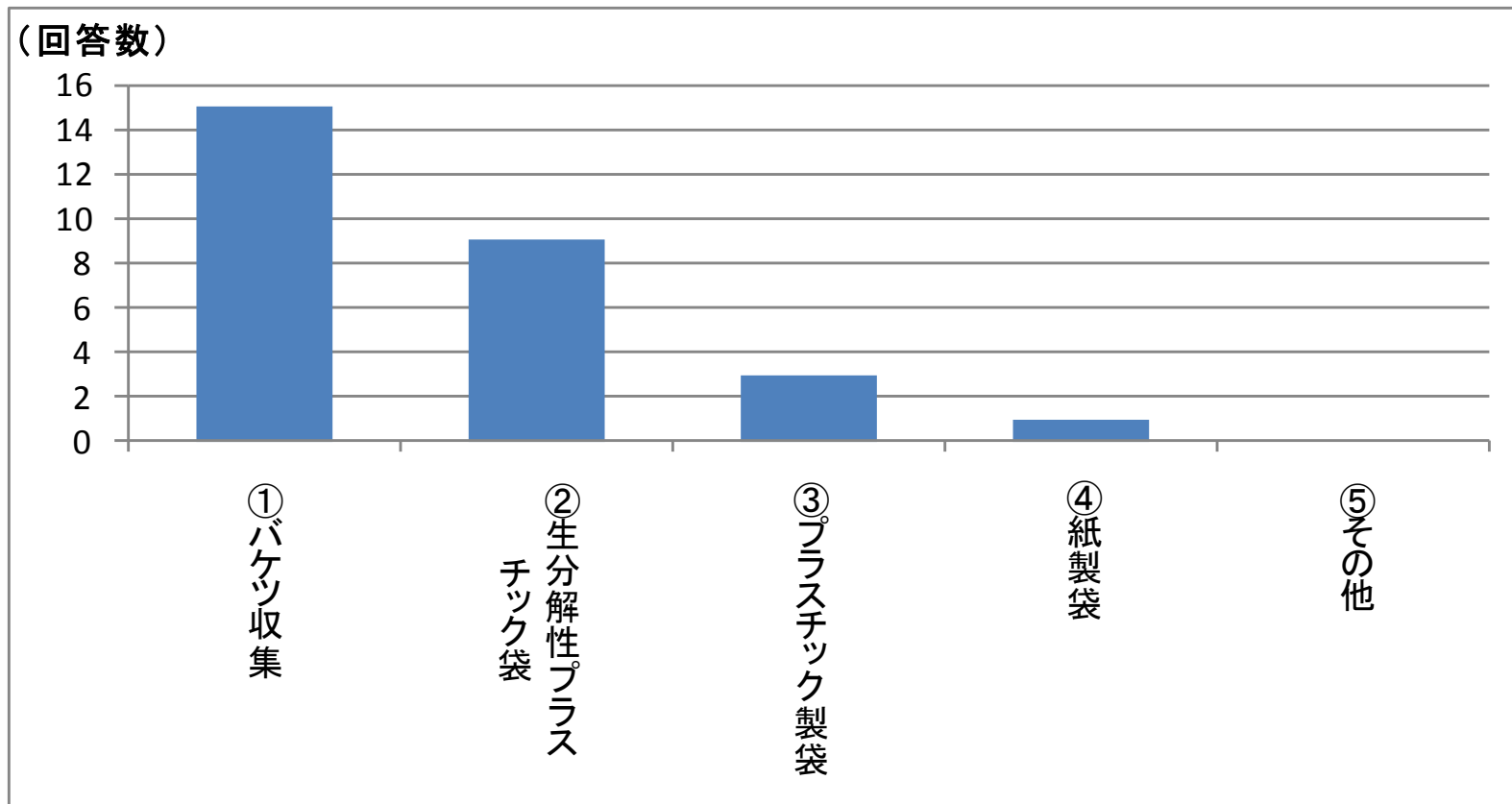
#### ① 処理主体



## ②分別実施前のモデル地区設置について

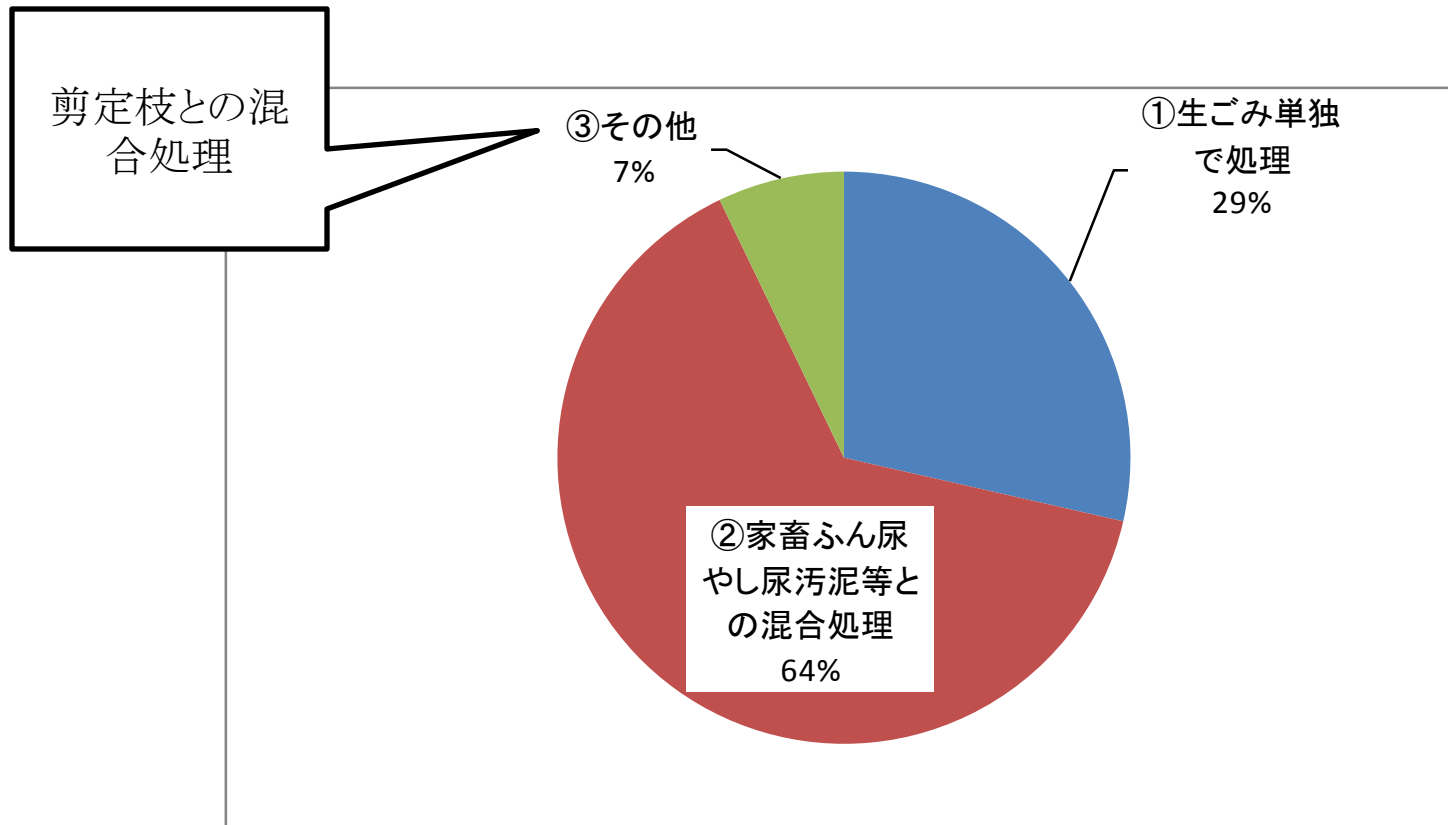


### ③収集容器



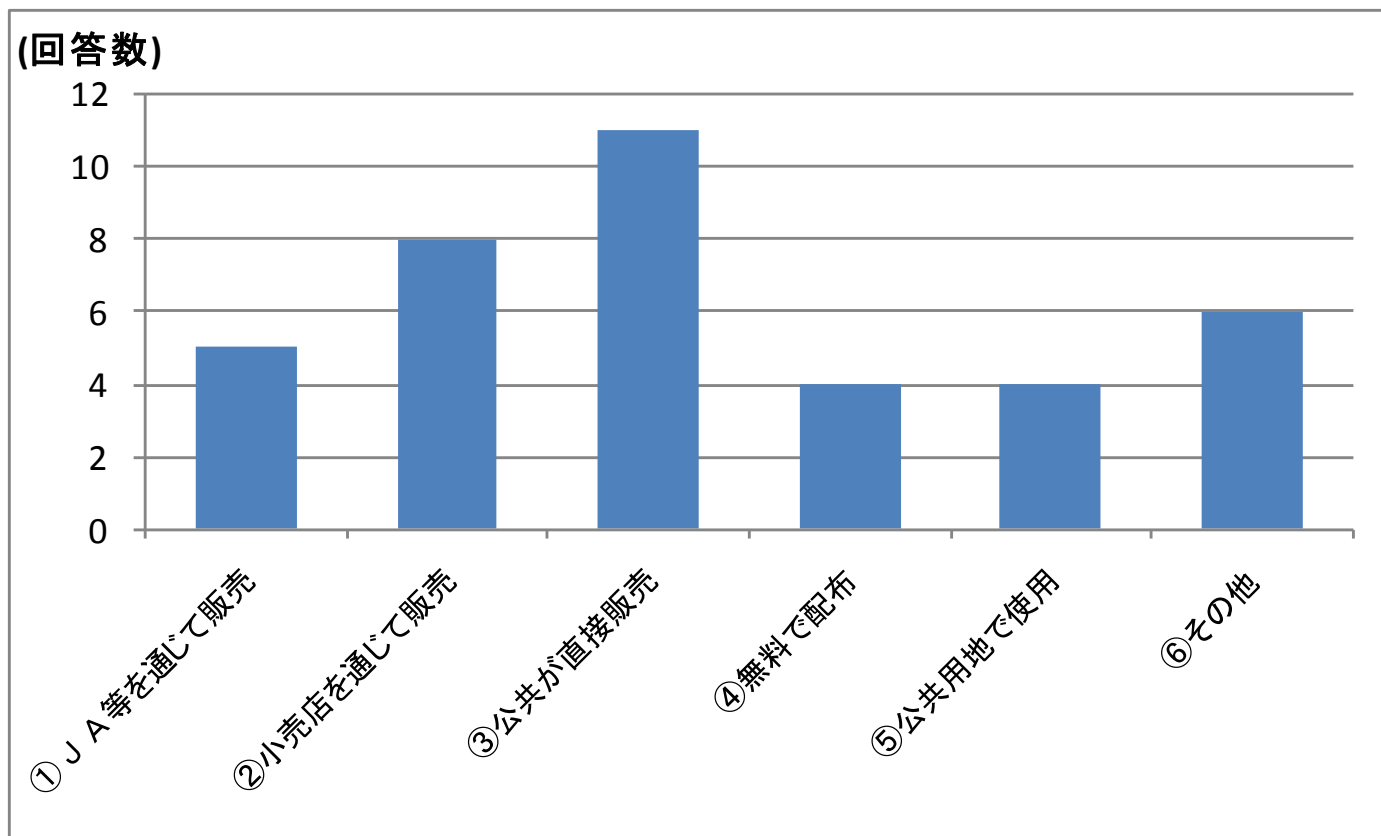
※一部モデル事業で実施している市町村において複数回答があったため、棒グラフとしている。

## ④処理内容



○ 問2 製品堆肥の流通について、該当する番号すべてお選び下さい。

①JA等を通じて販売している。
②ホームセンター等小売店を通じて販売している。
③公共が直接販売している。
④無料で配布している。
⑤公園や学校の花壇等公共用地で使用している。
⑥その他(具体的に記入: )

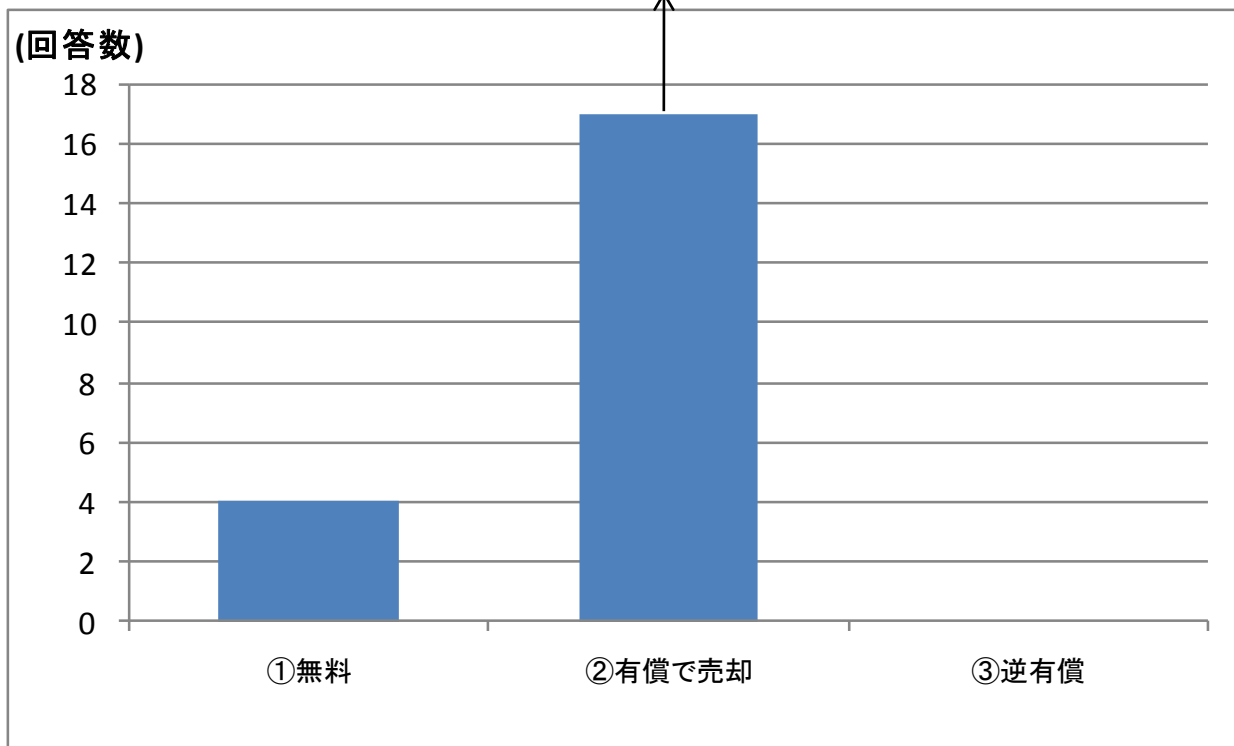


- 問3 貴市における製品(堆肥)の価格についてご回答下さい。なお、一部無料配布し一部売却している場合などは両方の欄に1とご記入下さい。②と③を選択された場合は、1t当たりの単価をご回答下さい。

平均	5,436	円/t
最大	17,410	円/t
中央値	4,600	円/t

種類	価格(袋詰め)	
油 粕	50,000	円/t
有機質土壌改良材	136,000	円/t

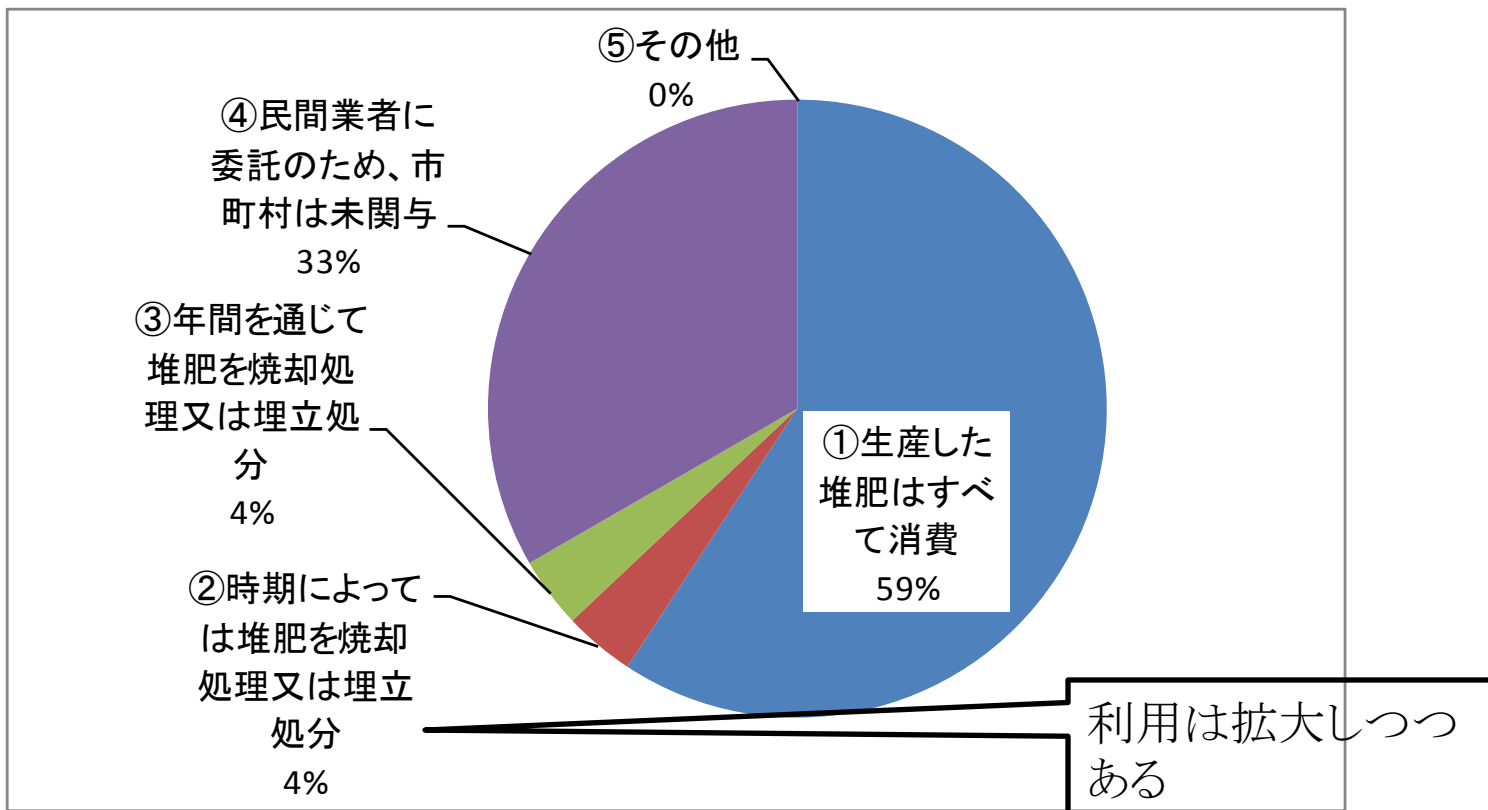
※備考:建設物価 平成22年1月





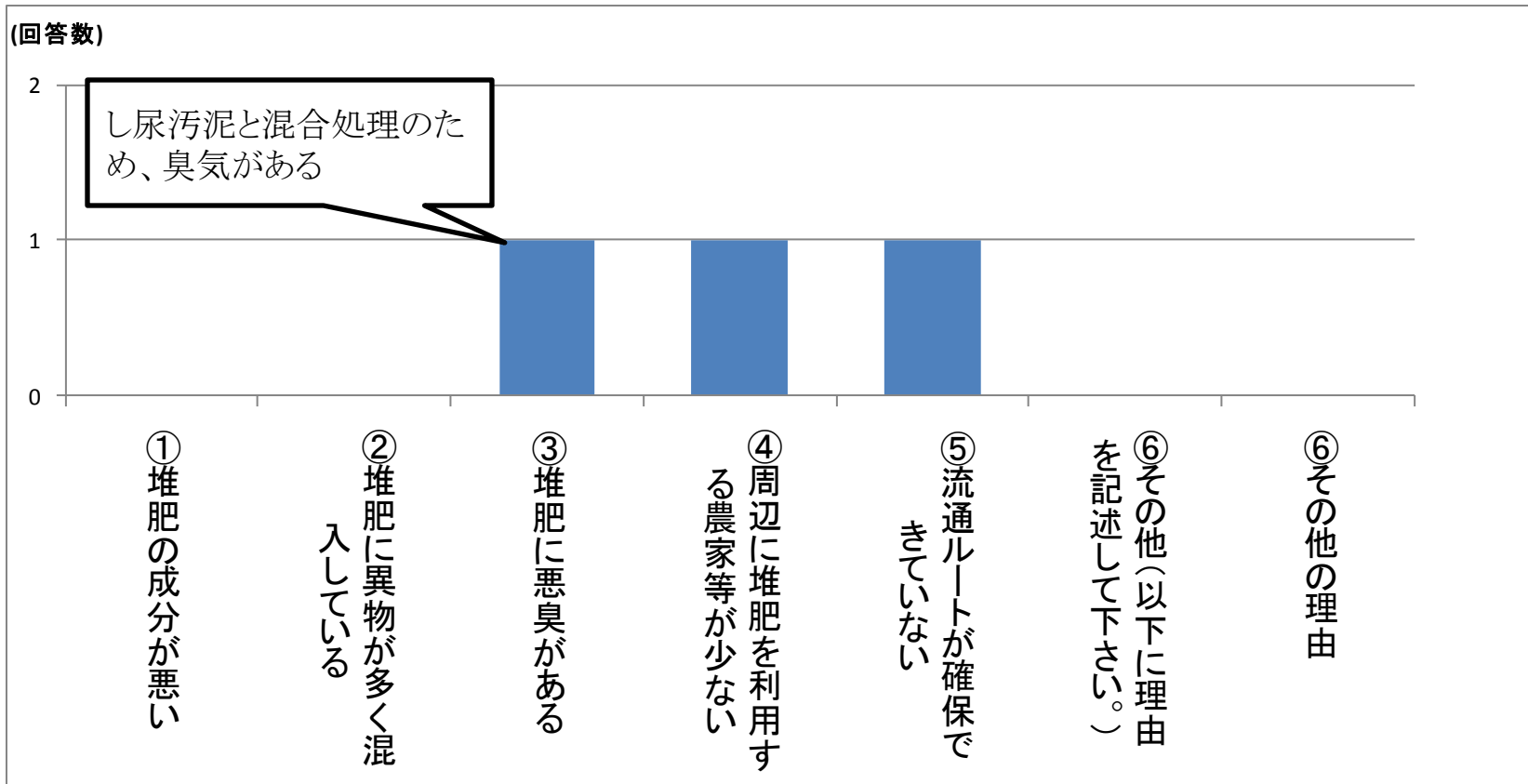
○ 問4 製品堆肥の需要について、該当する番号を1つお選び下さい。

- |                                      |
|--------------------------------------|
| ①生産した堆肥はすべて消費されている。                  |
| ②時期によっては生産した堆肥があまり、焼却処理又は埋立処分を行っている。 |
| ③年間を通じて生産した堆肥があまり、焼却処理又は埋立処分を行っている。  |
| ④民間業者に委託しているため、流通に市町村は関与していない。       |
| ⑤その他(具体的に記入: )                       |



- 問5 問4で②又は③と回答された方にお尋ねします。生産した肥料の流通がうまくいっていない理由について、当てはまるものをすべて選択して下さい。

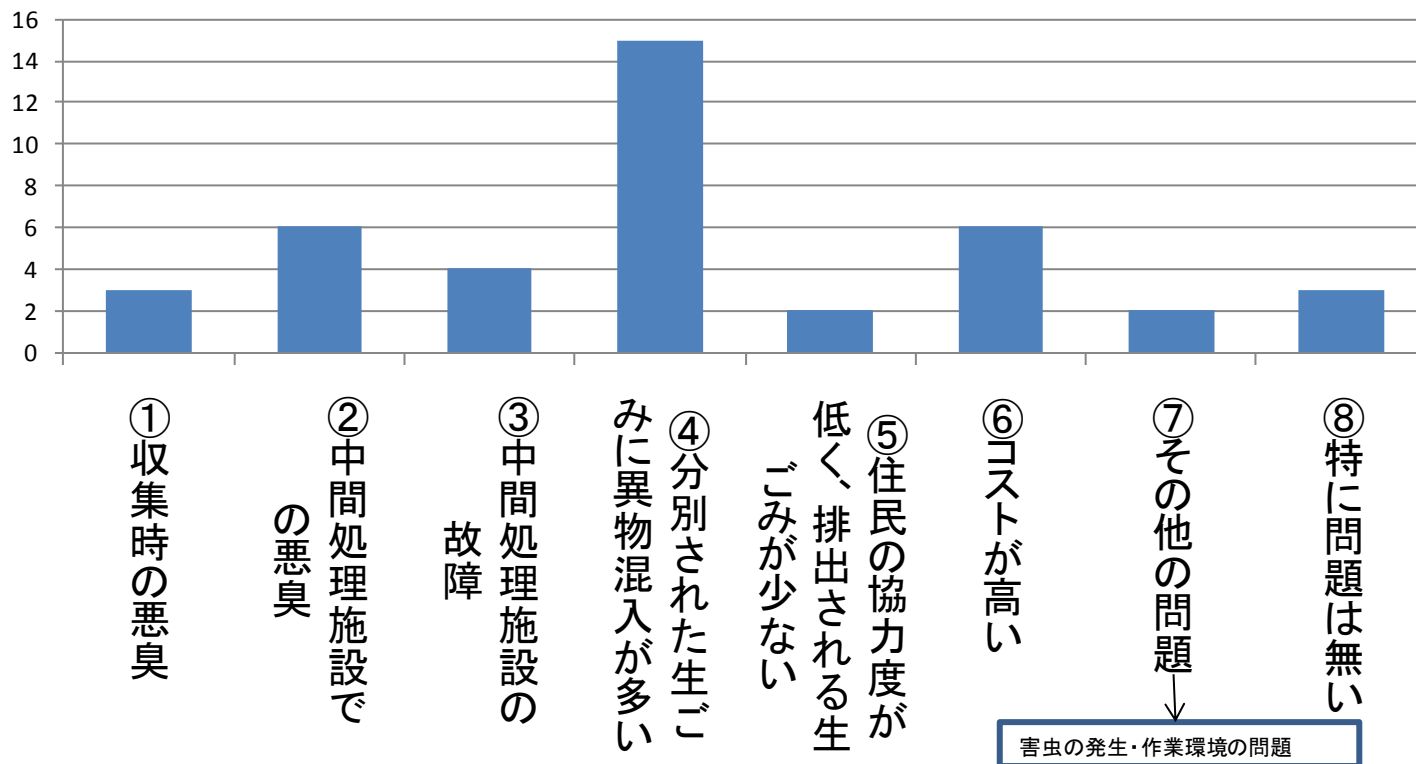
①堆肥の成分が悪い
②堆肥に異物が多く混入している
③堆肥に悪臭がある
④周辺に堆肥を利用する農家等が少ない
⑤流通ルートが確保できていない
⑥その他(以下に理由を記述して下さい。)



○ 問6 生ごみ資源化について、問題となっているものをすべて選択して下さい。

①収集時の悪臭
②中間処理施設での悪臭
③中間処理施設の故障
④分別された生ごみに異物混入が多い
⑤住民の協力度が低く、排出される生ごみが少ない
⑥コストが高い
⑦その他の問題(具体的に記入: )
⑧特に問題は無い

(回答数)



- 問7 これから生ごみ処理に取り組もうとしている市町村に対し、アドバイスがありましたら下欄に記述して下さい。
  
- 収集に生分解性の袋を使用しているが、耐久性に乏しいため保存期間、状態により袋が自然に破れてしまう。そのため、苦情が多く寄せられている。
  
- 当市では、生ごみ分別収集開始前に約半年間かけて、市内の全自治会(町内会)で説明会を開催した。これにより、市民の意識が高くなり、分別収集開始時から分別率が高く、安定した収集量を確保できている。

### Ⅲ. まとめ

#### 1. 生ごみ資源化についての概要

- 市町村施設での処理が6割、民間処理業者委託が4割
- 約半数の市町村が実施前にモデル地区を設置
- 収集容器はバケツが最も多く、次いで生分解性プラ袋、プラ袋、紙袋の順となる。
- 処理については、家畜ふん尿やし尿汚泥との混合処理が多い。

## 2. 堆肥の流通について

○生産した堆肥はすべて消費又は民間処理業者が行うという回答が9割以上を占めている。

○堆肥を処理・処分している市町村(2市町村)については、離島であり利用農家が少ないという回答と、し尿汚泥との混合処理により、堆肥に悪臭があるという回答であった。後者については、堆肥の消費は改善傾向にあるとのこと。

○生産された堆肥の価格は、一般的に流通している有機質堆肥より安価である。

## 3. 生ごみ処理の問題について

○問題としては分別の不徹底をあげる声が多い

## 4. まとめ

調査した結果、九州管内の市町村においては、堆肥の流通は概ね順調である。一部堆肥を処分しているという回答があったが、地理的制約や改善方向にあるとのことである。

生ごみから生産された堆肥については、一般に流通している有機質堆肥より価格が安いという利点があり、市町村によっては堆肥をペレット化し取り扱いを容易にしている例や、成分を明記した上で取り扱い状の注意を記載している例がある。

今回の調査結果からみると、九州地域における堆肥の需要については、特に問題はないのではないかと考えられる。